

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

All That Jazz

洗足学園音楽大学 音楽・音響デザインコース 録音専攻 4年
岩本 双葉

この度は、優秀録音技術賞と素晴らしい賞を頂けて光栄に思います。
日々指導して下さいました先生方、総勢 16 人の演奏者、レコーディングを手伝ってくれた同期・後輩
にお礼を申し上げます。
このレポートを通して私の遊び心を詰め込んだ作品について共有したいと思っています。

作品の企画意図

2018 年 10 月に NY に渡航しました。その際にブロードウェイミュージカル“CHICAGO”の鑑賞をきっかけにミュージカルを録音したいと思い、大学の様々なコースの方々の協力を経て今回の録音に至りました。

「視聴者がミュージカルの世界に迷い込む」
を録音のコンセプトにし、聴いている人がブロードウェイミュージカル“CHICAGO”の世界に迷い込んだような感覚になり、世界観に溶け込めるのはサラウンド作品ではないかと考え、5.1ch サラウンドでの制作を行いました。

楽曲概要

曲名：All That Jazz

ミュージカル『CHICAGO』の劇中曲でジャズ全盛期のアメリカイリノイ州シカゴでヴォード・ヴィリアンのヴォルマ・ケリーは夫と妹が浮気しているのを目撃し 2 人を殺害した。その際に歓迎として歌われた曲です。

作曲；John Kander 作詞；Fred Ebb

編曲；岡 和葉（洗足学園音楽大学 音楽・音響デザインコース 作編曲専攻 4年）

使用楽器；

Main Vocal/Chorus×5/Flute/Clarinet/Alto Saxophone/

Tenor Saxophone/1st Trumpet/2nd Trumpet/Piano/Wood Block/Wood Bass/Drums

レコーディング・ミックスについて

Setting Plan

録音、編集会場

録音場所；洗足学園音楽大学

ブラックホール

地下スタジオ CR-1

床面積；32.4 cm² 天井高；4m

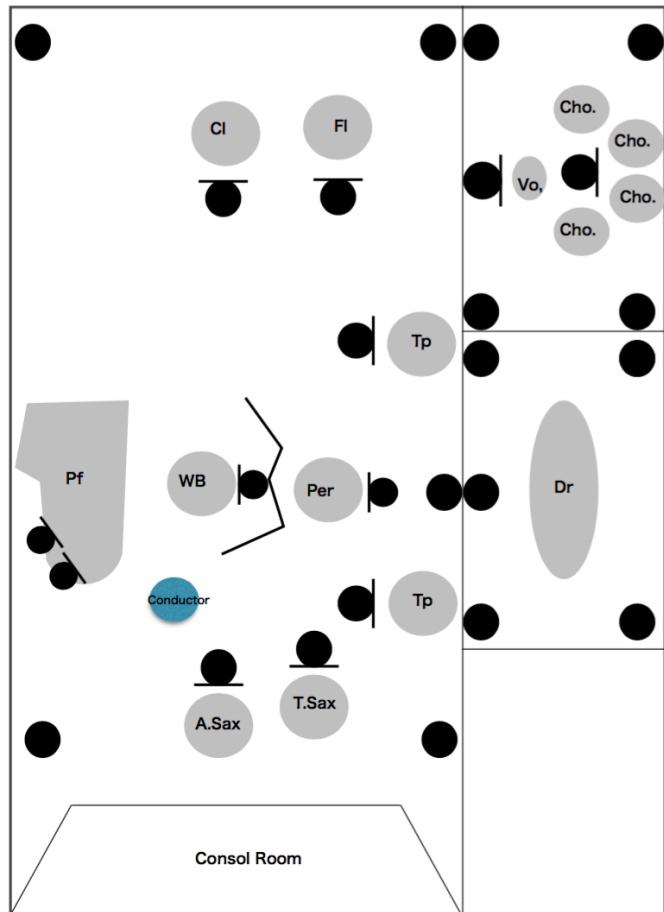
モニター環境；Musik electronic
geithain RL901K

・作品を制作するにあたり、LIVE 感を表現したいと思ったため、ダビング等は一切せずに、一発録りで行いました。

・ドラムとボーカル・コーラスはブースに入って頂き、各ブースにも部屋の隅にオフマイクをセッティングし、サラウンドミックスが行えるようにしました。

・ミックスダウンでは主にヴォーカルの音量調節を行いました。

・コーラスのリバーブをわざと深くかけてみたりと聴いて驚く作品に仕上げました。



Mic Planning

No.	Instrument	Mic	Stand	Remark
3	Flute	C414	210	
4	Clarinet	C414	210	
5	A.Saxophone	C414	210	
6	T.Saxophone	C414	210	
7	Trumpet1	U87	210	
8	Trumpet2	U87	210	
10	Pf_L	cmc64	stereo bar	
11	Pf_R	cmc64	stereo bar	
12	Wood Bass	U87	259	
13	Percussion	SM57	210	
14	Main_Vo	SM58	210	
15	Kick	ATM25	259	
16	Snare	SM57	259	
17	H.H	C451	210	
18	F.Tom	MD421	210	
19	H.Tom	MD421	210	
20	Top_L	C451	高砂	
21	Top_R	C451	高砂	
22	Chorus	C414	210	単一指向性

Surround Mic Plan

No.	Instrument	Mic	Stand	Remark
24	Main_L	CMC62	210	無指向性
25	Main_R	CMC62	210	無指向性
26	Main_C	CMC62	210	無指向性
27	Main_Ls	CMC62	210	無指向性
28	Main_Rs	CMC62	210	無指向性
29	Dr_L	U87	210	無指向性
30	Dr_R	U87	210	無指向性
31	Dr_C	U87	210	無指向性
32	Dr_Ls	U87	210	無指向性
33	Dr_Rs	U87	210	無指向性
34	Vo_L	C414	210	無指向性
35	Vo_R	C414	210	無指向性
37	Vo_Ls	C414	210	無指向性
38	Vo_Rs	C414	210	無指向性
39	Conductor_TB	SM58	210	

サラウンドマイクの距離

Main L - Main R; 250cm
Main Front - Main Rear; 370cm

マイクの高さ

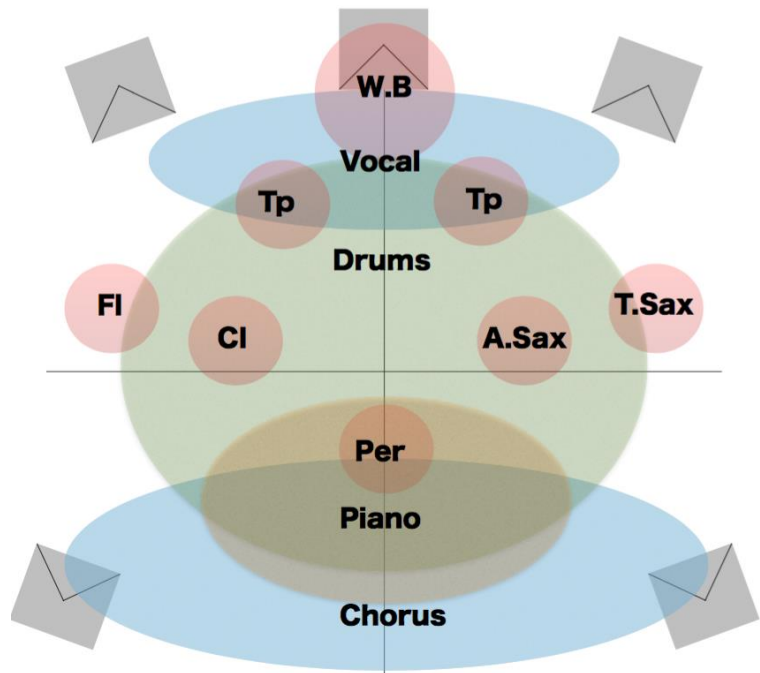
Main; 250cm
Chorus; 160cm

音像定位

・自分がステージ上に立っていると考えながら音像定位を考えました。

・ブロードウェイミュージカルでは CHICAGO はステージ上に楽器がのっているため、それを表現するために、楽器隊を気持ちリア寄りにしました。

・聴いている人が曲に囲われている感覚を作りたいかったので、コーラスとドラムドラムサラウンドで全体に広げた定位にしました。



総括

・ミュージカル音楽をステレオではなく、サラウンド録音にしたことによって、楽器の定位や音の動きが明確になりステージ上を表現できたと思います。よって、よりミュージカル音楽を楽しむ作品を作り上げることができました。

・マイクセッティングに追われてしまい、サラウンドマイクの高さ、距離感などの準備が厳かになってしまいました。今回の録音を通してサラウンド録音とは突然行おうと思って簡単にできる録音ではないと改めて感じさせたので、これからはステレオ録音もサラウンドセッティングで行い日々研究し“自分らしいサラウンド手法”を見つけることが大切だと感じました。

・LFEを最後の一発だけ使用したり、リバーブをあえて大きさにかけたりと私の遊び心が沢山入っている作品になったのではないかと思います。視聴者にこの遊び心が伝わるとういなと思いました。



執筆者プロフィール

岩本 双葉(いわもと ふたば)

1997年 神奈川県生まれ

2016年 洗足学園音楽大学 音楽学部 音楽学科
音楽・音響デザインコース 録音専攻 入学

2020年 同校卒業(予定)